

お世話になっております。いつもありがとうございます。

早いもので、令和7年に入って1ヶ月経ちました。大人になるとあっという間に1年が過ぎるのは、「人生にトキメキを感じなくなったから」だとチョコちゃんが言っていました。子供の時は、食事一つとっても、今日のご飯は何か？どんな味かな？作り方は？うぁ～大好きなハンバーグだ！等々、食事中にでも発見があります。一方で、大人はただ食事をするという事実（作業）だけ。このように、生活の中にトキメキを感じる機会が多いか少ないかによって、過ぎた時間を長いと感じるのか、短いと感じるのか変わってくるそうです。トキメキ（好奇心）はWingに通う子供達への目標課題の一つです。トキメキを持てるような接し方を心掛けます。



最近、『科学的根拠で子育て』という本を読みました。簡単に言えば、非認知能力について書かれた本です。

非認知能力とは、忍耐力（自制心）、我慢強さと自分をコントロールする力、リーダーシップ、責任感、社会性、協調性、やり抜く力、好奇心、他者への思いやり、失敗した後どうするのか、等々。

非認知能力は、学校を卒業した後役に立つ力です。教育や子育ては、短期的な成果よりも長期的な成果が重要（低学年・幼児期の子にはまだ早い！ではなく、wingでは、運動や感覚統合、ビジョントレーニング等を通して幼児期の子供から非認知能力の基礎を育てていく活動を取り入れています。）で、日本経済団体連合会が実施している「新卒採用に関するアンケート調査」によると1位、コミュニケーション能力（82.4%）、以下、主体性（64.3%）、チャレンジ精神（48.9%）、協調性（47.0%）、誠実性（43.4%）と続くそうで、「学力」や「学歴」はほとんど重要視されていません。ただ、学力の高い人は、総じて、我慢や努力をしているように感じます。

先日、小学生以上の子供達にもわかりやすいように、将来、お金持ちになるには、1. 我慢強さ（自制心）2. やり抜く力、3. 失敗した後「どうせ僕なんかダメだ！」と思わずどうすれば良いかを考える力が必要なんだって！と伝えています。これらは、開始前のマラソン（色々な動き）や黙想（瞑想）、様々な活動で、意識的に取り入れています。

この本では、スポーツや吹奏楽等の部活動の経験が将来の子供達にとって大切だと書いてありました。これらは、経験によって忍耐力、リーダーシップ、責任感、社会性などが身につくと考えられているからです。Wingや学童では、中学年から高学年になると、朝の会や帰りの会の進行や整列や人員管理など事あるごとに、リーダーの経験を積ませるように意識しています。



忍耐力・・・子供の頃や若い頃に忍耐力に欠けると、生涯収入が13%も低くなる事がわかっています。“可愛い、可愛い”と無理をさせるのはダメな事という神話に踊らされて、子供の言う通りに大人（親）が振り回されてばかりいると、忍耐力は身に付きません。多少のストレス（頑張り・努力）は将来の我慢強さのきっかけになります。

自制心・・・自分をコントロールする力。ダメなことはしない。SNSやスマホゲームがやめられないのはまさしく自制心。3歳～11歳の間に自制心が低かった人は32歳時点での健康面や経済面、そして安定的な生活面で不利になっていたそうです。

やり抜く力・・・アメリカの大学教授によると、もともとの才能よりも、困難や挫折に負けずに努力を続けることが重要であると立証しました。やり抜く力は勤勉性や将来の学歴や収入の間にも強い正の相関があるそうです。またやり抜く力の強い人は成長マインドセットを持っていると考えられています。

※成長マインドセットとは、努力することで自分の能力を向上させることが出来ると信じている力（考え）

Wingでも成長マインドセットに思考を変えるために、テストで高得点などの結果を褒めるよりも、宿題をきちんと提出出来たね！とか、最後までやり抜いたね！などの努力の結果を褒めるようにしています。